

電波式ワイヤレス コマンダー

取扱説明書

準備

設定

撮影

その他

安全のために



ヘルプガイド (Web取扱説明書)

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」も
ご覧ください。パソコンやスマートフォン
でご覧いただけます。

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1620/ja/>

ni Multi
Interface Shoe

危険 安全のために

(17～19ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、誤った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- 安全のための注意事項を守る
- 故障したら使わずに、ソニーの相談窓口 に修理を依頼する
- 万一、異常が起きたら

本機が熱くなり
変な音、変なにおい、煙が出たら



- ❶ 本機の電源を切る。
- ❷ 電池を外す。
- ❸ ソニーの相談窓口 に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・事故などにより死亡や大けがなど人身事故になることがあります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



感電



火災

行為を禁止する記号



ぬれ手禁止



禁止



分解禁止



接触禁止

行為を指示する記号



指示



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

お使いになるカメラのソフトウェアを、必ず最新のバージョンにアップデートしてから本機をお使いください。

カメラ本体との互換情報については、専用サポートサイトをご確認ください。

目次

お使いになる前に必ずお読みください	4
主な特長	6
各部の名称	7
準備	
電源を入れる	9
ペアリングする	10
設定	
MENUでできること	12
撮影	
本機を使って撮影する	13
その他	
使用上のご注意	14
主な仕様	15
保証書とアフターサービス	16
安全のために	17

お使いになる前に必ずお読みください

本機はマルチインターフェースシュー搭載のソニー製レンズ交換式デジタルカメラと組み合わせてご使用いただけます。

組み合わせて使うカメラの機種によって一部動作しない機能があります。

対応機種はWEBをご確認ください。

本書とあわせて、お使いのカメラの取扱説明書もご確認ください。

本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機に雨がかからないようにしてください。

置いてはいけない場所

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。故障の原因になります。

- 異常に高温になる場所
炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
変形したり故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になることがあります。

シンクロ端子について

- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを⚡(シンクロ)ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。

通信可能距離について

本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）の通信可能距離は約30mです。

- 障害物や遮蔽物、他の機器との電波干渉がない場合の距離です。
- 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。

機器認定について

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本製品を分解/改造すること

周波数について

本製品は2.4GHz帯で使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
3. その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS4

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDSSS変調方式を採用し、与干渉距離は40m以下です。

主な特長

本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）を使用して、複数のフラッシュを使ったワイヤレスフラッシュ撮影や、複数のカメラを使ったリモートリリース撮影ができます。

ワイヤレスフラッシュ撮影

本機を使って、電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けられたソニー製純正フラッシュ（別売、以下フラッシュと記載）を電波式ワイヤレス通信でコントロールできます。電波式ワイヤレスレシーバーを最大5グループに分けて発光モードや発光量を設定することで、さまざまな状況でのフラッシュ撮影に対応します。複数のフラッシュを使ったTTLフラッシュ撮影やマニュアルフラッシュ撮影、ハイスピードシンクロ撮影(HSS)などができます。

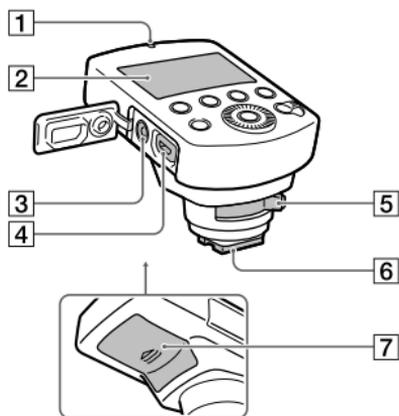
リモートリリース撮影

本機を使って複数のカメラに同時にリリースさせることができます。ひとつの被写体をさまざまなアングルから同時に撮影できます。

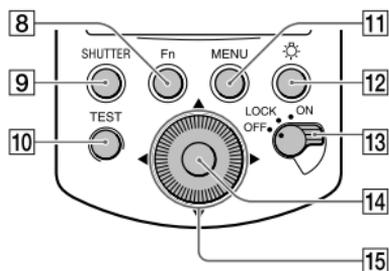
- リモートリリース撮影には、電波式ワイヤレスレシーバー（別売）とマルチ端子用接続ケーブル(別売)が必要です。

各部の名称

()内の数字は参照ページです。



操作部

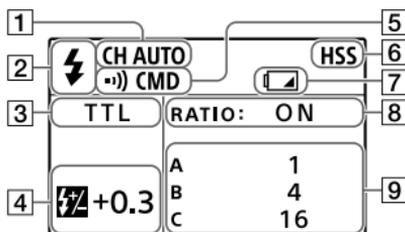


- 1 LINKランプ(10)
- 2 液晶表示部(8)
- 3 ⚡(シンクロ)ターミナル
- 4 マルチ/マイクロUSB端子
リモートレリーズ撮影時に、本機とカメラを接続します。
- 5 ロックレバー (9)
- 6 マルチインターフェースフット (9)
- 7 バッテリーカバー (9)
- 8 Fn (ファンクション) ボタン
設定変更用の画面(クイックナビ画面)に表示が切り替わり、すばやく設定値を変更できます。
- 9 SHUTTERボタン
リモートレリーズ撮影時に、電波式ワイヤレスレシーバーに接続されたカメラのシャッターを切ります。
- 10 TESTボタン
撮影前のテスト発光を行います。
- 11 MENUボタン(12)
- 12 ☀(液晶表示部照明) ボタン
液晶表示部とボタン周辺の照明を点灯または消灯します。
- 13 電源スイッチ(9)
「LOCK」にすると、コントロールホイールなどのボタンが無効になります。誤って設定を変更してしまうことを防ぎます。
- 14 中央ボタン
メニュー画面で選んだ設定項目を決定します。
- 15 コントロールホイール
クイックナビ画面やメニュー画面でカーソル(白黒反転表示)を移動させたり設定値を変更します。
また、撮影時は◀ボタンに調光補正/光量レベル設定が、▶ボタンにレシーバー個別設定が割り当てられています。

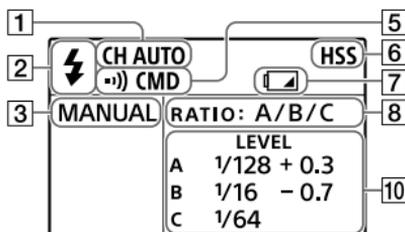
画面表示

各撮影モードについては、
13ページをご覧ください。

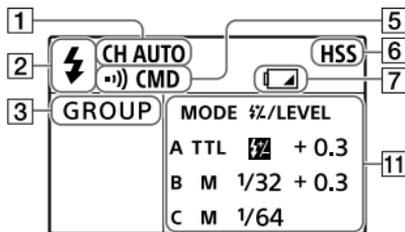
TTLモード



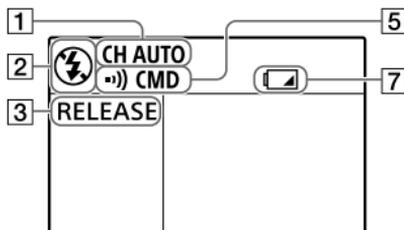
MANUALモード



GROUPモード



RELEASEモード



- 1 チャンネル
- 2 ワイヤレスフラッシュモード
ワイヤレスフラッシュ撮影時は⚡が、
それ以外の場合は🔋が表示されます。
- 3 撮影モード
- 4 調光補正
- 5 通信モード
- 6 ハイスピードシンクロ撮影
- 7 電池警告
電池の残量が少なくなると表示され
ます。早めの電池交換をおすすめし
ます。
- 8 光量比設定
- 9 光量比
- 10 光量レベル
- 11 グループ設定(発光モード、調光補
正/発光量)

電源を入れる

本機で使用できる電池は、以下のとおりです。

- 単3形アルカリ乾電池 2本
- 単3形ニッケル水素電池 (Ni-MH) 2本

ニッケル水素電池は、必ず指定の充電器で完全に充電してからお使いください。

1 バッテリーカバーを開け、電池(別売)を入れる。

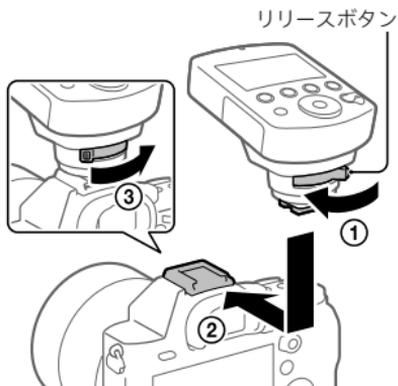
- 電池室の表示(☒)にしたがって電池を入れる。(☒は乾電池の向きを示しています。)

2 本機をカメラに取り付ける。

- 本機の電源が入っていないことを確認してください。
- 本機のマルチインターフェースフット、カメラのマルチインターフェースシューからキャップを取り外してください。

- ① ロックレバー先端のリリースボタンを押しながら、ロックレバーを「RELEASE」の方向へ回す。

- ② マルチインターフェースフットを、カメラのマルチインターフェースシューに矢印の方向に止まるまでしっかりと差し込む。
- ③ ロックレバーを「LOCK」の方向へ回し、本機を固定する。



3 電源スイッチを「ON」にする。

本機の取り外しかた

本機の電源を切ってから、手順2の

- ①を行って取り外してください。
- 本機を使用しないときや本機だけを持って使用するときは、マルチインターフェースフットにキャップを取り付けてください。

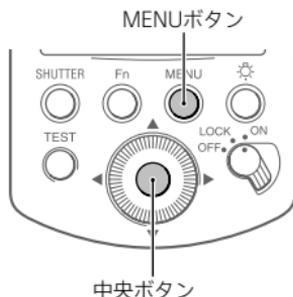
ペアリングする

本機を使用してワイヤレスフラッシュ撮影やリモートリリーズ撮影を行うために、本機と電波式ワイヤレスレシーバー（別売）をペアリングする必要があります。

- ペアリングは、電波式ワイヤレスレシーバーとの距離が1m以内の状態で行ってください。
- ペアリング可能台数は15台までです。

- 1 本機の電源を入れ(9ページ)、MENUボタン → [PAIRING] → [ADD]を選んで中央ボタンを押す。

本機のLINKランプが緑色に点滅する。



- 2 電波式ワイヤレスレシーバーの電源が入っていないことを確認し、電波式ワイヤレスレシーバーのON/OFFボタンを7秒以上押し続ける。

電波式ワイヤレスレシーバーの電源が入り、LINKランプが緑色に点滅する。



- 3 ペアリングが完了すると、電波式ワイヤレスレシーバーのLINKランプが緑色の点灯に変わる。

- 2台以上の電波式ワイヤレスレシーバーを本機とペアリングする場合は、続けて手順2～3を繰り返してください。

4 中央ボタンを押す。

ペアリングが終了し、本機のLINKランプが緑色の点灯に変わる。

- 本機や電波式ワイヤレスレーザーのLINKランプが赤色に点灯しているときは、ペアリングされていません。手順1からやり直してください。

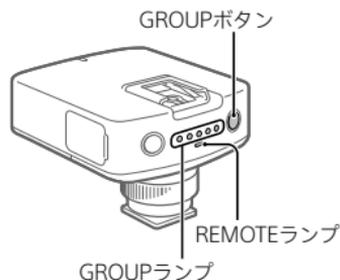
ペアリングを解除するには

本機のMENUボタン → [PAIRING] → [LIST]を選び、ペアリングを解除したい電波式ワイヤレスレーザーの (削除)にカーソルを合わせて中央ボタンを押します。

- ペアリングを解除する電波式ワイヤレスレーザーの電源を入れた状態で行ってください。

グループについて

ペアリングした電波式ワイヤレスレーザーを最大5つのグループに分けることができ、グループごとに発光モードや発光量を設定できます。電波式ワイヤレスレーザーのREMOTEランプの状態を切り替えて、2通りのグループ設定方法を使い分けることができます。電波式ワイヤレスレーザーのGROUPボタンを2秒以上押すと、REMOTEランプが点灯/消灯します。



REMOTEランプ点灯中

本機のMENUボタン → [RECEIVER SET]で電波式ワイヤレスレーザーのグループを設定できます。

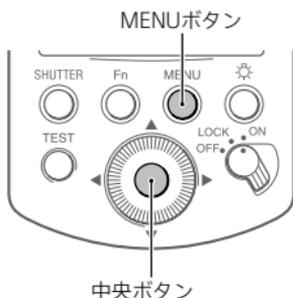
REMOTEランプ消灯中

電波式ワイヤレスレーザーのGROUPボタンを繰り返し押してグループを設定できます。

MENUでできること

本機やペアリングした電波式ワイヤレスレーザー（別売）の設定の変更や確認ができます。

MENUボタンを押し、希望のメニュー項目にカーソルを合わせて中央ボタンを押す。



各MENU項目について、詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

HSS（ハイスピードシンクロ）

ハイスピードシンクロのオン/オフ、および発光レベル設定を切り替えます。

RECEIVER SET （レーザー個別設定）

ペアリングした電波式ワイヤレスレーザーの設定の変更や確認ができます。

CH SET

（チャンネル切り替え）

ワイヤレス通信で使用するチャンネルを設定します。

PAIRING（ペアリング）

電波式ワイヤレスレーザーとペアリングします（10ページ）。

TEST（テスト発光）

テスト発光のモードを設定します。

LEVEL STEP （レベルステップ）

光量レベルの設定幅を設定します。

POWER SAVE （パワーセーブ設定）

パワーセーブまでの時間を設定します。

VERSION（バージョン表示）

本機やペアリングした電波式ワイヤレスレーザーのソフトウェアのバージョンを表示します。

RESET（リセット）

発光モードや発光量の設定値をリセットします。

INITIALIZE（初期化）

工場出荷状態に戻します。

- ペアリング情報も削除されます。

本機を使って撮影する

ワイヤレスフラッシュ撮影

カメラの撮影モードを[プログラムオート]、[絞り優先]、[シャッタースピード優先]または[マニュアル露出]に、[フラッシュモード]を[ワイヤレス]に設定してください。

電波式ワイヤレスレシーバー（別売）に取り付けたフラッシュの発光モードはTTLモードに、照射角（ズーム）はAUTOに設定してください。

HVL-F32Mをお使いの場合、ハイスピードシンクロ（HSS）撮影時は、1/16以上の発光量で使用してください。

TTL (TTLフラッシュ撮影モード)

カメラの測光をもとに、フラッシュの発光量を自動で設定します。

MANUAL (マニュアルフラッシュ撮影モード)

フラッシュの発光量を手動で設定して撮影します。

GROUP (グループ発光撮影モード)

グループごとに発光モードを設定して撮影します。

各撮影モードについて、詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

リモートリリース撮影

本機のSHUTTERボタンまたは本機を取り付けたカメラのシャッターボタンを押すことで、電波式ワイヤレスレシーバー（別売）と接続したカメラで撮影できます。

本機の撮影モードを[RELEASE]に設定し、電波式ワイヤレスレシーバーのマルチ/マイクロUSB端子とカメラのマルチ/マイクロUSB端子をマルチ端子用接続ケーブル（別売）で接続してください。

- 本機を取り付けたカメラのシャッターボタンでリモートリリース撮影する場合は、本機をカメラのマルチインターフェースシューに取り付けて、カメラの[フラッシュモード]を[ワイヤレス]に設定してください。

使用上のご注意

本機について

- カメラに本機を取り付けたまま、かばんなどに入れて持ち運ばないでください。カメラおよび本機が壊れる恐れがあります。
- カメラに本機を取り付けたまま、本機を持って持ち運ばないでください。故障の原因になります。
- バッテリーカバーを閉める場合、バッテリーカバーをしっかりと抑えながら閉めてください。このとき、指などをはさまないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。

電池について

- アルカリ乾電池は、温度や保管のしかたによっては、電池残量を実際の残量よりも低く検出され、電池警告表示が出ることがあります。このような場合でも、本機をしばらく使用すると電池残量が回復することがあります。
- ニッケル水素電池は、電池残量が残り少なくなると急激に性能が低下します。撮影中に突然電池警告表示のみが点滅して本機が使用できなくなったり、電池警告表示が点滅し始めてすぐに使用不可能になることもあります。

- 長期間ご使用にならないときは、電池を取り外して保管してください。

使用温度について

- 本機の使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに本機を放置しないでください。
- 急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、屋外でビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新しい電池を使う、保温した予備の電池を用意して温めながら交互に使う、などの点に留意してご使用ください。また低温下では、電池の残量が残っていても一時的に電池警告表示が点滅することがあります。なお低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復し再び使えるようになります。

主な仕様

その他のご注意

保管するときは電池を外してください。発火、液漏れの原因となることがあります。

お手入れのしかた

本機をカメラから取り外し、柔らかい布で拭きしてください。砂がついたときは、こすると傷が付きますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いてから、もう一度から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

使用周波数帯	2.4 GHz帯
チャンネル数	14チャンネル
通信可能距離	約30 m

- 障害物や遮蔽物、他の機器との電波干渉がない場合の距離です。
- 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなる場合があります。

外形寸法(約)

58.0 mm×65.8 mm×83.7 mm
(幅×高さ×奥行き)

本体質量(約)

93 g (電池含まず)

動作温度	0°C～40°C
保存温度	-20°C～+60°C
電源電圧	DC 3 V

動作可能時間(約)

12時間(アルカリ乾電池使用時)

推奨電池

単三形アルカリ乾電池 2本
単三形ニッケル水素電池 2本

同梱物

電波式ワイヤレスコマンドー (1)、
ケース (1)、端子保護キャップ (1)、
印刷物一式

取扱説明書に記載の機能は当社試験条件によります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証は日本国内に限られています

本製品は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されておりますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子の悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 品名：FA-WRC1M
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。当社では本機の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低7年間保有しています。

(2ページもあわせてお読みください。)



下記の注意事項を守らないと、**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。危険ですので、絶対に自分で分解しないでください。内部の点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

内部に水や異物を入れな い

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、本機の電源を切り、電池を取り出してください。



禁止

本機を布団などでおおっ た状態で使わない

熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。



禁止

撮影時は周囲の状況に注 意を払う

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。



禁止

製品および同梱物を、乳幼児の手の届く範囲に放置しない



禁止

幼児の手の届かない場所に置き、口に入れないよう注意する。万一、飲みこんだ場合は、ただちに医師に相談してください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない



禁止

フラッシュなどの撮影補助光を至近距離で人に向けてない



禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

ワイヤレス機能ご使用上のご注意

病院などの医療機関内、
医療用電気機器の近くで
はワイヤレス機能を使用
しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作
による事故の原因となる恐れ
があります。

航空機内ではワイヤレス
機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作
による事故の原因となる恐れ
があります。

本製品を使用中に他の機
器に電波障害などが発生
した場合は、ワイヤレス
機能の使用を中止する



指示

電波が影響を及ぼし、誤動作
による事故の原因となる恐れ
があります。



火災



感電

下記の注意事項を守らないと、**けが**を
したり周辺の**家財に損害**を与えたり
することがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気
の多い場所では使わない、
置かない



禁止

上記のような場所で使うと、
火災や感電の原因となること
があります。

ぬれた手で本機をさわら
ない



感電の原因となることがあり **ぬれ手禁止**
ます。

安定した場所に置く



禁止

ぐらついた台の上や傾いたと
ころなどに置いたり、不安定
な状態で設置すると、製品が
落ちてけがの原因となること
があります。

カメラに取り付ける際は、
本機の電源を切った状態
で行う



指示

本機の誤動作や誤発光の原因
となり、強力な光で目をいた
める恐れがあります。

⚠ 危険

電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大げがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をお守りください。

⚠ 危険



禁止

- 火の中に入れてない。電子レンジやオーブンで加熱しない。
- ショートさせたり改造、分解しない。
- コインやヘアピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそば、炎天下、高温になった車の中などで放置したりしない。
- 水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。

⚠ 警告



禁止

- ハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり落下させるなどの強い衝撃を与えない。
- 幼児の手の届かない場所に置き、口に入れないよう注意する。万一、飲みこんだ場合は、ただちに医師に相談してください。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠ 注意



禁止



指示

- 乾電池は充電しない。
- 電池を使い切ったとき、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 十と一の向きを正しく入れる。
- 古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池は一緒に使わない。

お願い



Ni-MH ニッケル 水素電池

ニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については

一般社団法人JBRCホームページ
<http://www.jbrc.com/>
を参照してください。

商標について

Multi Interface Shoe (マルチインターフェースシュー)はソニー株式会社の商標です。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル

…………… **0120-333-020**

携帯電話・PHS・一部のIP電話

…………… **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル

…………… **0120-222-330**

携帯電話・PHS・一部のIP電話

…………… **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「402」+「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

© 2016 Sony Corporation Printed in China



4585643010